

No. 913

献 血

—東京・福島—

売血が基になって発展してきた日本の血液事業は、常習化された供血者達のために、いわゆる「黄色い血液」問題などの弊害をまねき、世論の厳しい批判を浴びてきました。

昭和39年8月、このような状況を改善するため、政府は「献血の推進について」の閣議決定を行ない、血液事業の正常化を進めてきましたが、必要とする保存血液を常に十分確保することは、血液型とその有効期間等の制約から仲々困難を極めています。

しかし、一人の人が13年間に一回、200 mlの献血に協力すれば、我が国の保存血液の必要量がまかなえるのです。我々一人一人が、血液事業をもっと身近なものとしてとらえ、献血に協力していきたいものです。

人 心 一 新

第66臨時国会

7月5日発足した第3次佐藤改造内閣、ほとんど全閣僚に及ぶ大幅な入替えによってまた多くの新大臣が誕生した。大臣誕生をめぐる悲喜こもごもの組閣ドラマで明け暮れた首相官邸。

佐藤内閣誕生から7年目、6回の改造を含め組閣も9回を数えた。この間製造された大臣は100人を越す。この中で初めて昭和生れの大臣が出現した。科学技術庁長官、平泉渉氏（41歳）がその人。

35歳で参院選初当選、先の参院選で全国区から出馬、二度目の当選をしたばかりでこの金的を射止めた。外交官出身だけに「東西の教養と語学力をつけた国際人」と誰れもがそのセンスを認める。と同時に、若さあふれる昭和生まれの新大臣に期待する声は多い。

14日召集された第66臨時国会、先の参院選で当選したばかりのタレント議員も初登壇し、外装を変えた。「人心一新、したものの、数々の課題を残して佐藤丸はスタートした。